

## 業務用ディスポーザシンクユニット

50DUP-1.5-H

# 取扱説明書



この説明書を読んで理解するまでは、業務用ディスポーザシンクユニットの操作および保守・点検を行わないで下さい。

この説明書は、業務用ディスポーザシンクユニットの操作または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管して下さい。

設備工事を行う皆様へ

この取扱説明書は、業務用ディスポーザシンクユニットの操作・保守・点検を行うお客様に必ずお渡し下さい。

株式会社テラルキョクトウ

## 保証の限定

1. 保証期間中、正常なご使用にもかかわらず、株式会社テラルキョクトウが納入した機器の設計、または工作の不備が原因で故障、破損が発生した場合に限り、その部分について無償で修理または交換をします。
2. 前項による保証範囲は、不具合部分の機械的保証までとし、その故障に起因する種々の出費およびその他の損害は保証いたしません。
3. 以下の故障、破損の修理は有償とさせていただきます。
  - (1) 故障、破損が当社の納入していない機器が原因で発生した場合
  - (2) 保証期間経過後の故障、破損
  - (3) 火災、天災地震等の災害および不可抗力による故障、破損
  - (4) 当社に承諾なしで実施された修理、改造による故障、破損
  - (5) 指定品以外の部品をご使用された場合の故障、破損
4. 業務用ディスプレイユニットの誤用や乱用が原因で発生した損害についての責任は、全く無いものとします。

また、このことによる技術員の派遣費用は、有償とさせていただきます。
5. 不具合の原因が不明確な場合は協議の上、処置を決定することとします。

## 本書の目的

本書の目的は、業務用ディスポーザシンクユニットについて、正しい操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。

また、本書は、業務用ディスポーザシンクユニットの操作経験者または操作経験者から指導を受けた人を対象として制作しており、以下の情報を記載しております。

## 目次


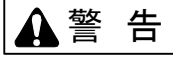
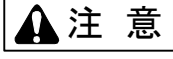
	(ページ)
1. 安全について	1
1. 1 警告用語の種類と意味	1
1. 2 安全に関する順守事項	1
2. 業務用ディスポーザシンクユニットの構成と概要	3
2. 1 各部の名称と機能	3
2. 1. 1 ディスポーザシンクユニット本体	3
2. 1. 2 制御盤と操作パネル	5
2. 2 業務用ディスポーザシンクユニットの仕様	7
2. 3 動作フロー	9
2. 3. 1 粉碎運転	9
2. 3. 2 洗浄運転	10
3. 運転	11
3. 1 運転方法	11
3. 1. 1 粉碎運転	11
3. 1. 2 洗浄運転	13
3. 2 投入できる生ごみ及び投入できない生ごみの種類	14
4. 保守・点検	15
4. 1 保守・点検の際の注意事項	15
4. 2 定期点検	15
4. 3 消耗品の交換	16
5. 故障の原因と対策	17
5. 1 異常時の表示	17
5. 1. 1 過負荷ランプの点灯	17
5. 1. 2 リセット方法	17
5. 2 機器の状態がおかしいと感じたら	18

# 1. 安全について



## 1. 1 警告用語の種類と意味



取扱説明書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、次の4段階に分類しています。

以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意味
 <b>危険</b>	切迫した危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは、重傷を負う場合に使用されます。
 <b>警告</b>	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは、重傷を負うかもしれない場合に使用されます。
 <b>注意</b>	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合または機器・装置が損傷する場合に使用されます。
<u>注記</u>	特に注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

## 1. 2 安全に関する順守事項

	順守事項
 <b>危険</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 粉碎運転中に、点検口内へ手を入れないで下さい。搬送スクリーン及びディスポーザが運転しており重傷を負います。</li> </ul>
 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絶対に分解、改造はしないで下さい。感電、火災、漏水、故障の原因になります。</li> <li>・ 据付・保守・点検の実施は、必ず業務用ディスポーザシンクユニットの取り扱いの指導を受けた人が行って下さい。電気配線に関する作業については、電気工事士等の有資格者以外は実施しないで下さい。</li> <li>・ 電源供給元には必ず漏電遮断器を設置して下さい。</li> <li>・ 感電防止のため、アースは必ず取り付けて下さい。</li> <li>・ 主電源を投入した後は、制御盤などの内部の通電部分には触れないで下さい。内部の通電部分には200Vが印加されており、感電の恐れがあります。</li> <li>・ 装置本体、操作パネル、制御盤、および電動機には水をかけないで下さい。漏電や感電の原因になります。</li> <li>・ 運転や保守・点検をする時は、関係する作業員に周知させ、危険な個所に作業員がいないことを確認して下さい。運転中は操作に必要な部分以外は、装置に触れないで下さい。</li> </ul>

 <b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ディスポーザ内部に手を入れるときは、下記に従って下さい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①制御盤内の漏電遮断器を OFF にして、元電源を遮断する。</li> <li>②全運転が停止していることを確認する。</li> <li>③厚手の手袋を着用する。</li> </ul> </li> <li>・ 保守・点検を実施する前には必ず装置を停止し、分電盤の元電源を遮断して下さい。電源を投入したままで作業すると、感電の恐れがあります。</li> </ul>
 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各操作部はていねいに操作して下さい。乱暴に操作すると、機械の損傷、誤動作および故障の原因になります。</li> <li>・ 欠陥があったり、作動しない部品がある状態で運転しないで下さい。</li> <li>・ 電動機の開口部やベルトカバー内に指や棒などを入れしないで下さい。</li> <li>・ 粉碎運転中に生ごみ投入口や点検口より、無理に指や棒などを入れしないで下さい。</li> <li>・ 点検口内蓋を正しく取り付けられた状態で、装置を運転して下さい。</li> <li>・ 排水設備を設置しない状態での運転はしないで下さい。</li> <li>・ 無給水での運転はしないで下さい。</li> <li>・ 装置運転中は排水口及び装置外排水配管をふさがしないで下さい。</li> <li>・ 生ごみ以外の物や投入できない生ごみは投入しないで下さい。</li> <li>・ 許容量を超えて、生ごみを投入しないでください。</li> <li>・ 装置上に重いものを置かないで下さい。装置が変形する恐れがあります。</li> <li>・ 装置運転中は装置上に物を置かないで下さい。振動により、物が落下する恐れがあります。</li> </ul>

## 2. 業務用ディスポーザシンクユニットの構成と概要

### 2. 1 各部の名称と機能

#### 2. 1. 1 ディスポーザシンクユニット本体

##### (1) 外装部



#### ① 生ごみ投入口

扉を開いて生ごみを投入します。

#### ② 貯留ホッパー

生ごみを一時的に貯留します。

#### ③ 搬送スクリュー

貯留ホッパー内の生ごみをディスポーザへ搬送します。

#### ④ 点検口

ディスポーザ内の点検時に使用します。点検時以外は閉じておいて下さい。

#### ⑤ 点検口内蓋

点検口の内蓋です。点検時以外は、取り外さないで下さい。

#### ⑥ 洗浄ノズル (洗浄ノズル付きのみ)

貯留ホッパー内の清掃時に使用します。

#### ⑦ 洗浄用給水栓 (洗浄ノズル付きのみ)

洗浄ノズルの給水栓です。

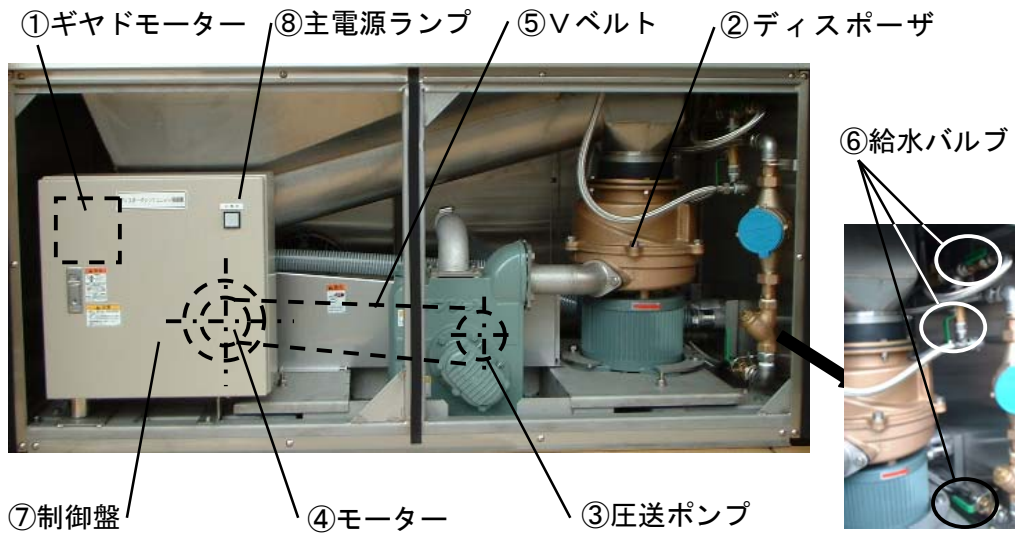
#### ⑧ 給排水接続口

給排水管の接続口です。  
(※給湯口は洗浄ノズル付の場合)

#### ⑨ 操作パネル

運転を操作するボタン及び運転状態を示すランプがあります。

(2) 内装部



①ギヤードモーター

搬送スクリーを回転させます。

②ディスポーザ

生ごみを粉碎します。

③圧送ポンプ

ディスポーザ排水を排水処理設備へ圧送します。

④モーター

圧送ポンプ用のモーターです。

⑤Vベルト

モーターの回転を圧送ポンプに伝えます。

⑥給水バルブ(3箇所)

給水用のバルブです。

メンテナンス時など以外は、常時開いておいて下さい。

⑦制御盤

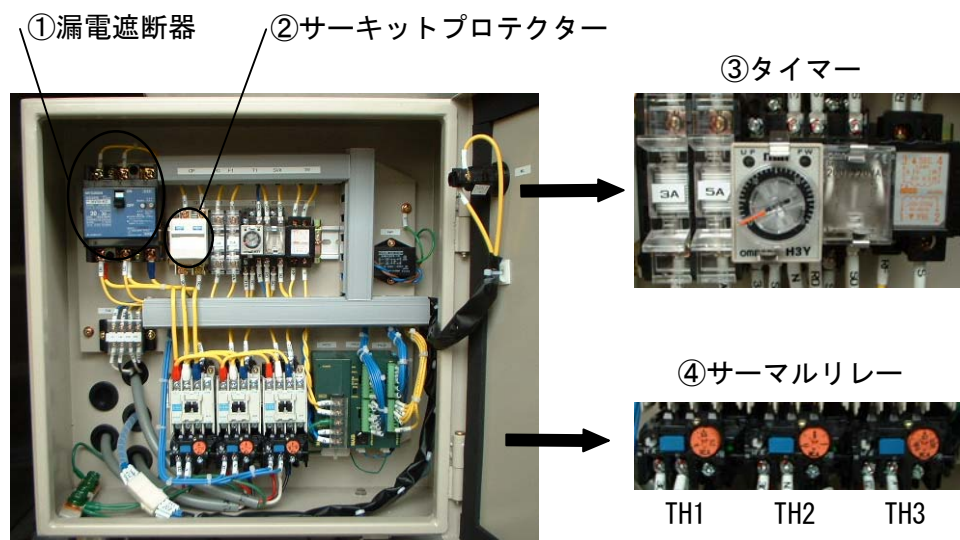
漏電遮断器やタイマーなどの装置を制御するための機器が入っています。

⑧主電源ランプ

制御盤1次側に電源が入力されている場合に点灯します。

## 2. 1. 2 制御盤と操作パネル

### (1) 制御盤(ユニット内部)



#### ①漏電遮断器

…漏電時に電気を遮断します。

#### ②サーキットプロテクター

…電氣的事故から制御回路を保護します。

#### ③タイマー

…圧送ポンプ停止時間を設定します。(初期設定値 T 2 (2分))

(設定値の変更は、メンテナンス会社が行って下さい。)

#### ④サーマルリレー

…搬送スクリー、ディスポーザ及び圧送ポンプの過負荷を検知して電気を遮断する保護装置です。

TH 1 (初期設定値 5.9) : ディスポーザ用

TH 2 (初期設定値 9.0) : 圧送ポンプ(モーター)用

TH 3 (初期設定値 0.59) : 搬送スクリー(ギヤードモーター)用

(初期設定値から絶対に変更しないで下さい。)



## (2) 操作パネル



### ■操作ボタン

業務用ディスポーザシンクユニットの運転を操作するボタンです。

#### 洗浄－粉碎(セレクトスイッチ)

…「粉碎」においては、生ごみの粉碎、圧送及び洗浄の全ての運転を自動制御します。

「洗浄」においては、貯留ホッパー内の洗浄をすることができます。

起動(赤色)…運転を開始します。

運転切り替えはセレクトスイッチ「洗浄－粉碎」で選択します。

停止(黒色)…運転を停止します。

リセット(黄色)…過負荷ランプ点灯時、サーマルリレーを解除します。

又、非常停止状態を解除できます。

非常停止(赤色)…運転中に押すと、業務用ディスポーザシンクユニットの全ての運転を停止します。

非常停止の状態を解除するときは、このボタンを時計回りに廻し、リセットボタンを押して下さい。

再度、起動ボタンを押すと通常運転を行えます。

### ■表示灯

業務用ディスポーザシンクユニットの運転状況を点灯・点滅でお知らせします。

電源(白色)…電源が入っている状態で点灯します。

粉碎中(緑色)…粉碎運転における生ごみ粉碎時に点灯します。

洗浄中(緑色)…粉碎運転の停止後、洗浄運転に切り替わった際、又は「洗浄」運転時に点滅します。

過負荷(橙色)…ディスポーザや圧送ポンプ用モーター、又は搬送スクリー用ギヤードモーターが過負荷になった際に点灯します。

## 2. 2 業務用ディスポーザシンクユニットの仕様

### 注意

- ・決められた製品仕様以外でのご使用は行わないで下さい。  
感電・火災・漏水・故障の原因になります。

#### (1) 装置全体

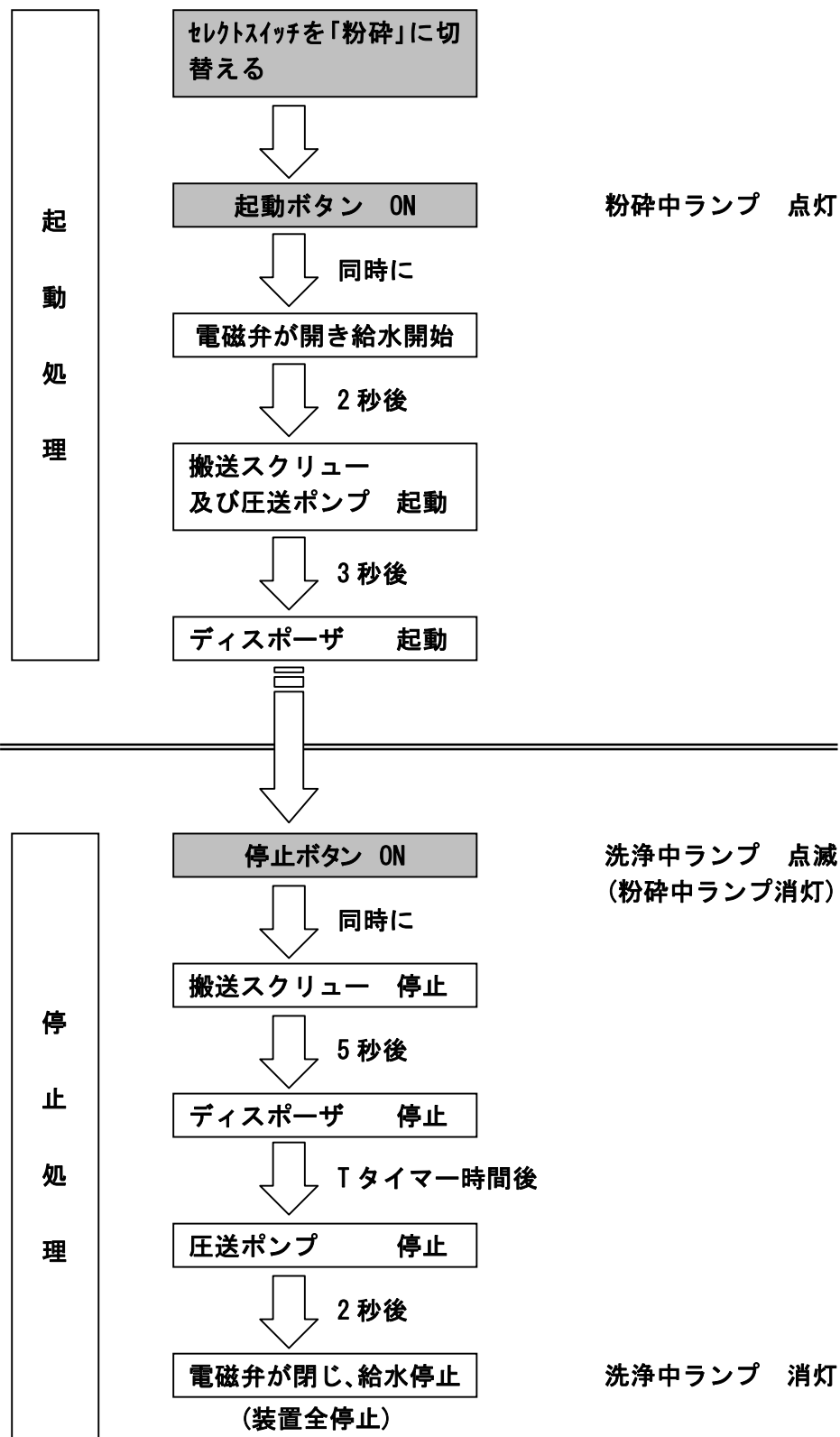
商品名	業務用ディスポーザシンクユニット
型式	50DUP-1.5-H
投入方式	バッチ式
粉砕方式	ハンマーミル方式
大きさ	1500(幅) × 751(奥行) × 850(高さ)mm バックガード高さ 150mm 含まず
材質	ステンレス鋼(SUS304)
主電源	3φ 200V(50Hz)/200-220(60Hz) (対応周波数については銘板に記載) 許容範囲：±10%以内 相間アンバランス：3%以内
定格電流	16.7A (50Hz) 15.6-14.9A(60Hz)
定格時間	30分
取扱液質	水道水(0~40℃)
必要給水量	25ℓ/分(20A) 許容範囲：±5ℓ/分以内
製品総重量	約350kg(防音型は360kg)

(2) 各部詳細

貯留ホッパー	貯留ホッパー容量(投入可能量)	約 58 ㍓ (約 30 ㍓)
	投入口間口(有効寸法)	890 × 460mm (860 × 380mm)
	シンク洗浄用水栓(付属の場合)	(株)カクダイ製 シングルバ-混合栓 186-000 型
デイスポータ	メーカー	(株)テラルキョクトウ
	型式	50DSP-1.5
	大きさ	331(幅) × 322(奥行) × 478(高さ)mm
	破砕能力	12kg/分
	電動機	3φ 200V 1.5Kw 4P
	運転時間定格	30 分
	材質(破砕室部)	青銅鑄物
圧送ポンプ	メーカー	(株)アンレット
	型式	PH-50
	構造	自吸式ルーツ式
	口径(吸込 × 吐出)	65A × 50A
	大きさ	370(幅) × 325(奥行) × 755(高さ) mm
	ポンプ標準性能(水量 × 揚程)	75 ㍓/分 × 9 m
	電動機	3φ 200V 2.2kW 4P 全閉外扇形
	ポンプ回転数	700 回転/分
搬送スクリーン	スクリーン直径	200mm
	電動機	3φ 200V 90W
	スクリーン回転数	9 回転/分
	搬送能力	約 12kg/分(24 ㍓)
制御盤	形状	自立型屋内
	大きさ	400(幅) × 160(奥行) × 400(高さ)mm
	形状	1 サイクル自動運転回路・洗浄運転回路
	大きさ	漏電遮断器・過負荷保護装置

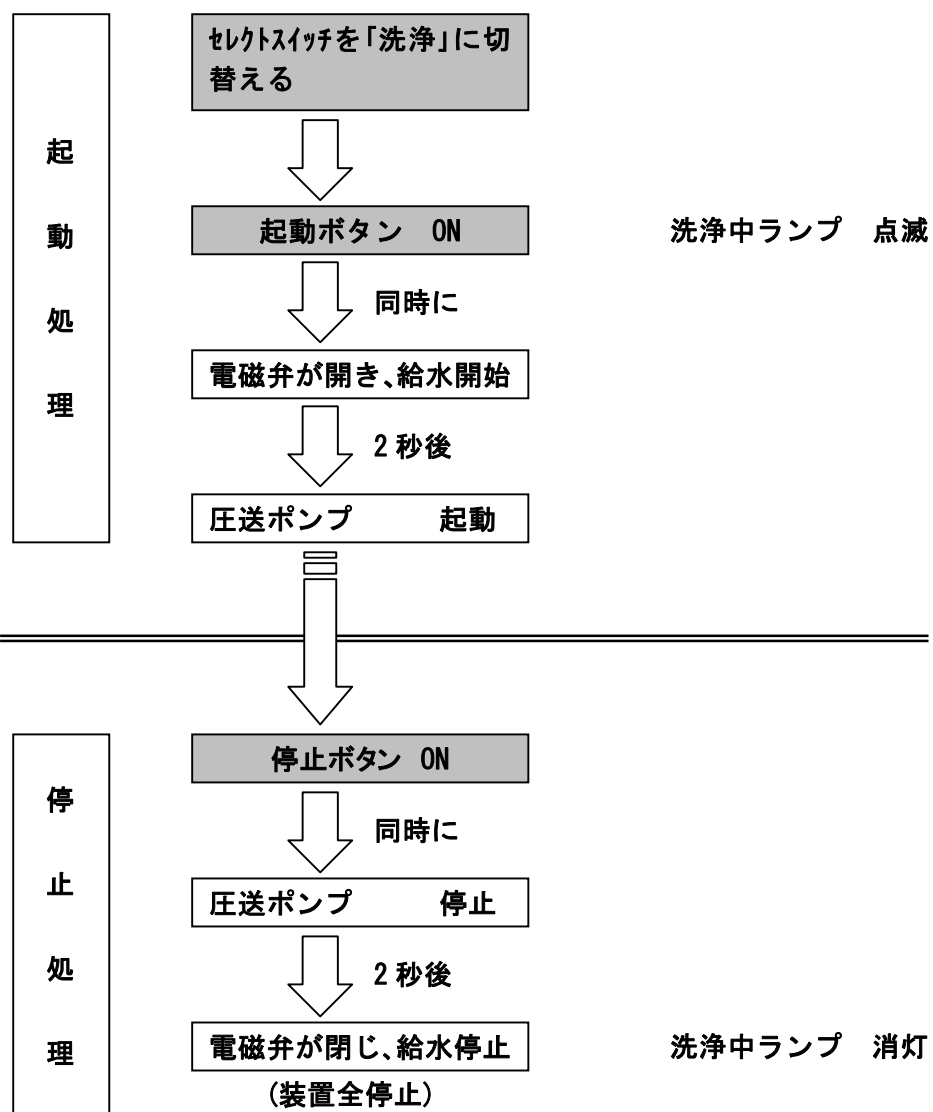
## 2.3 動作フロー

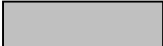
### 2.3.1 粉砕運転



■ は、手で操作します。それ以外は、すべて自動的に制御されます。

## 2. 3. 2 洗浄運転




 は、手で操作します。それ以外は、すべて自動的に制御されます。

### 3. 運転

#### 3. 1 運転方法

##### 3. 1. 1 粉碎運転

- 
- ①初回運転時、または点検の際など圧送ポンプ内の水を抜いた時のみ、  
圧送ポンプ内に呼び水して下さい。
- 〔 呼び水口を開いて、溢れるまで水を入れて下さい。〕  
〔 その後、呼び水口をしっかりと閉じて下さい。 〕
- ②電源ランプが点灯していること、給水バルブが開いていることを確認して下さい。  
電源ランプが点灯していない場合は、制御盤内のブレーカー及びサーキットプロテクターがONになっていることを確認して下さい。
- ③点検口内蓋がしっかりと閉まっていることを確認して下さい。
- ④セレクトスイッチ「洗浄－粉碎」を粉碎にします。
- ⑤生ごみ投入口を開きます。
- ⑥貯留ホッパー内に生ごみを投入します。  
投入できる生ごみについては、  
「3.2 投入できる生ごみと投入できない生ごみの種類」を参照して下さい。
- ⑦生ごみ投入口を閉めます。(生ごみ投入口が開いた状態では、起動しません。)
- ⑧起動ボタンを押して下さい。粉碎中ランプが点灯し、生ごみの粉碎が開始します。  
安全のため、運転中に生ごみ投入口を開くと運転が停止します。  
再度運転する際には、生ごみ投入口を閉め、起動ボタンを押して下さい。
- ⑨停止ボタンを押すと、自動的に装置が停止処理に入ります。  
粉碎中ランプが消灯し、自動的に洗浄ランプが点滅します。  
洗浄中ランプ点滅時はホッパー内の洗浄及び排水を装置が行っています。  
一定時間後、自動的に洗浄中ランプが消灯し、全運転が停止します。

連続して生ごみを粉碎する場合には、⑤～⑨の操作を行って下さい。

また、貯留ホッパー内の汚れが目立つ場合には、「3. 1. 2 洗浄運転」に従って洗浄を行って下さい。

#### 危険

- ・ 粉碎運転中は生ごみ投入口や点検口内へ絶対に手を入れないで下さい。  
重傷の原因となり、大変危険です。

### 警告

- ・ぬれた手で操作パネル部をさわらないで下さい。  
感電の原因になります。
- ・粉砕運転中に装置が停止ししても、生ごみ投入口内や点検口内へすぐに手を入れないで下さい。  
重傷の原因になります。

### 注意

- ・圧送ポンプは必ず呼び水を行って下さい。  
呼び水なしで運転をすると1～2分でメカニカルシールが焼損して故障します。
- ・装置運転中に金属音や非常に大きな音がした場合は、直ちに非常停止ボタンを押して、運転を停止して下さい。  
運転を続けると装置故障の原因となります。
- ・決められた投入量以上の生ごみや、5 cm角以上の生ごみを投入しないで下さい。  
生ごみ投入口が開き、リミットスイッチの作動によって装置が停止します。
- ・運転中は装置上に物を置かないで下さい。  
生ごみ投入口が開いた場合や、運転中の振動により、物が落下する恐れがあります。

### 注 記

- ・粉砕運転中に生ごみ投入口を開くと、装置が全て停止します。  
生ごみ投入口を閉じて再び起動ボタンを押すと、粉砕運転が初期より開始します。
- ・装置運転中に非常停止ボタンを押したり、過負荷状態になると装置が全て停止します。  
各状態を解除した後に再び起動ボタンを押すと、運転が初期より開始します。

### 3. 1. 2 洗浄運転

- ①電源ランプが点灯していることを確認して下さい。  
点灯していない場合は、制御盤内のブレーカー及びサーキットプロテクターが ON になっていることを確認して下さい。
- ②セレクトスイッチ「洗浄－粉碎」を洗浄にします。
- ③起動ボタンを押して下さい。洗浄ランプが点滅し、ホッパー内の洗浄が開始します。
- ④停止ボタンを押して下さい。  
一定時間後、自動的に洗浄ランプが消灯し、全運転が停止します。

洗浄運転中は生ごみ投入口を開いて、貯留ホッパー内を清掃できます。  
下記に従って清掃を行って下さい。

#### 洗浄ノズル付きの場合

- ①洗浄用給水栓を開きます。
- ②洗浄ノズルを引き出し、洗い流したい箇所にノズルの先を向けて、ノズルのレバーを引いて下さい。レバーを引いている間、水が出ます。  
特に、貯留ホッパー内の汚れがひどい時は、台所用中性洗剤とスポンジ(シンクに傷が付かないもの)を使用して洗浄して下さい。
- ③レバーを放し、ノズルを元の位置に戻して下さい。
- ④洗浄用給水栓を閉じて下さい。

#### 洗浄ノズルが付いていない場合

ホースなどで装置外部より貯留ホッパーへ給水することにより、洗浄ノズル付きの場合と同様に清掃できます。

#### 注意

- ・ 洗浄ノズルを使用しない時は、洗浄用水栓を閉じておいて下さい。  
洗浄ノズルからの水漏れ原因となります。
- ・ 酸性洗剤、アルカリ洗剤などの薬品や、40℃以上のお湯は流さないで下さい。  
装置故障の原因になります。
- ・ 洗浄ノズルや、ホースなどで貯留タンク内を清掃する場合は、他に水がかからないように注意して下さい。  
装置故障の原因になります。
- ・ 外部給水系統から貯留ホッパーに給水する際は、給水中に装置より離れないよう注意して下さい。  
漏水により装置が故障する恐れがあります。



### 3. 2 投入できる生ごみ及び投入できない生ごみの種類

下記を参考に、生ごみを投入して下さい。

投入できない生ごみや、生ごみ以外のものは絶対に投入しないで下さい。

#### ①投入できる生ごみ

肉、魚、果物、野菜、菓子、米飯、麺類、パン、茶殻、魚・鶏の骨

#### ②投入できないごみ

以下のものは処理できなかつたり、装置が傷付いたりしますので入れないでください。  
また、大きなものは小さくし、熱いものは冷めてから入れてください。

##### 殻や骨

カキ・サザエ・ホタテなどの貝殻、カニ類などの殻、牛や豚などの大きな骨  
鯛などの大きな魚の頭や骨 など

##### かたいもの

トウモロコシ・パイナップルなどの芯や皮  
かぼちゃ・柿・桃などの種 など

##### 強い繊維質のもの

枝豆などのさや、バナナのへた、玉ねぎ、竹の子、栗などの皮 など

##### 生ごみ以外のもの

金属、ガラス、陶器、石、砂、木、紙、割り箸、爪楊枝、竹串、プラスチック、  
ゴム、ビニール袋、ラップ、アルミホイル、たばこの吸殻・灰、生花、落葉 など

##### 排水処理性能を悪化させるもの

油、酸性・アルカリ洗剤などの薬品  
多量のシチュー・カレー・味噌汁・乳製品・調味料 など

##### 装置や排水管を傷めたり、詰まったりするもの

高温のもの、水あめなどの粘性液、ガムなどの粘着性のあるもの  
多量の米飯、多量のわかめや魚の皮

※その他、投入できる生ごみについては販売店へご相談ください。

#### 注意

・投入できない生ごみや、生ごみ以外のものは絶対に投入しないで下さい。  
これらを投入して運転すると、装置が故障する恐れがあります。

## 4. 保守・点検

### 4. 1 保守・点検の際の注意事項

日常点検の際、特に次のような点に注意して下さい。

- ・本体の損傷、水漏れがないかどうか、確認して下さい。
- ・配管の損傷、水漏れがないかどうか、確認して下さい。
- ・本体から異音がないかどうか、確認して下さい。
- ・制御盤内の接点・端子のゆるみ、水滴などの混入がないか、確認して下さい。
- ・長期間運転しない場合は、冬季などに装置及び配管内が凍結する恐れがありますので  
圧送ポンプのドレン口より排水して下さい。  
再度運転の際には、圧送ポンプの呼び水を行って下さい。

### 4. 2 定期点検

以下の表を参考にして定期点検を行って下さい。

点検箇所	判断基準	点検周期		
		日常	1週間	1ヶ月
音・振動	異常のないこと	○		
ディスプレイ	内部に生ごみが残っていないこと。		○	
清掃	「3. 1. 2」の操作を行うこと。	○		
漏電遮断器	テストボタンを押すと、OFFになること。			○

また、月に1回程度、装置外板の清掃を行って下さい。

清掃時は必ず元電源を遮断してから行って下さい。

ステンレス部分はかたくしぼったぬれ雑巾で拭きとり、操作パネル部は乾いた雑巾で拭きとって下さい。

#### 注意

- ・外板清掃の際は、必ず元電源を遮断してから行って下さい。
- ・装置に水を絶対にかけないで下さい。
- ・操作パネルをぬらさない様に注意して下さい。

その他、メンテナンス契約に基づいて、当社指定のメンテナンス会社が定期点検を行います。

#### 4. 3 消耗品の交換

使用状況により異なりますが、概ね下記の表を目安として下さい。

項目	部品名	数量	交換時期
圧送ポンプ	Vベルト	2本	1回/3年
	ベアリング用グリス	3.2g	1回/1年
	サイドギヤ用グリス	60g	1回/1年
	アッセンブリー	1式	1回/5年
ディスポーザ	オイルシール	3個	1回/3年
	ベアリング	3個	1回/5年
搬送スクリー	オイルシール	2個	1回/3年
	ベアリング	1個	1回/5年

メンテナンス契約に基づいて、当社指定のメンテナンス会社が交換を行います。

#### 注意

- ・ 部品交換・修理等は、専門の業者または当社指定のメンテナンス会社に依頼して下さい。

## 5. 故障の原因と対策

### 5. 1 異常時の表示

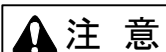
#### 5. 1. 1 過負荷ランプの点灯

装置内への異物投入などにより、搬送スクリュウ(ギヤードモーター)、ディスポーザ及び圧送ポンプ(モーター)が過負荷状態になります。

この時、装置保護のために過負荷ランプが点灯すると同時に、装置の安全を確保するために全運転が停止します。

「5. 2 機器の状態がおかしいと感じたら」に従って点検を行った後、

「5. 1. 2 リセット方法」の操作に従って過負荷状態を解除して下さい。

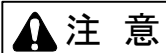


- ・頻繁に過負荷ランプが点灯する場合は、メンテナンス会社に点検を依頼して下さい。

#### 5. 1. 2 リセット方法

過負荷ランプが点灯していることを確認し、原因を究明して状態を回復させた後に、リセットボタンを押します。

過負荷ランプが消灯し、過負荷状態が解除されます。



- ・必ず、原因を究明して状態を回復させてからリセットを行って下さい。  
状態を回復せずにリセットを行って無理に運転を続けると、装置故障の原因になります。

#### 注記

- ・過負荷ランプ点灯直後はサーマルの温度上昇により、リセットボタンを押しても過負荷ランプが消灯しないことがあります。  
サーマルは自然冷却により自動的に復帰します。  
しばらく冷却時間をおいてから、再度リセットボタンを押して下さい。

## 5. 2 機器の状態がおかしいと感じたら

次の表に従って調べていただき、直らないときは直ちにメンテナンス会社に修理をご依頼下さい。

状態	原因	対策
起動ボタンを押しても作動しない	・元電源が落ちていないか。	・元電源を投入して下さい。
	・電源プラグがコンセントから抜けていないか。	・電源プラグを確実にコンセントに差し込んで下さい。
	・制御盤内のブレーカーがOFFになっていないか。	・ブレーカーをONにして下さい。
	・制御盤内のサーキットプロテクターがOFFになっていないか。	・サーキットプロテクターをONにして下さい。
	・漏電遮断器の漏電表示ランプが点灯している。	・漏電遮断器のリセットボタンを押して下さい。
	・生ごみ投入口が開いている。	・投入口を確実に閉めて下さい。
	・非常停止状態でないか。	・非常停止ボタンを時計回りに廻した後にリセットボタンを押し、非常停止状態を解除して下さい。
	・過負荷ランプが点灯していないか。	・項目「過負荷ランプが点灯した。」に従って、過負荷状態を解除して下さい。
振動・異音がする。	・投入できないものを投入していないか。	・投入できないものは粉碎しないで下さい。
	・ディスプレイ破砕室内に異物がないか。	・点検口を開いて、破砕室内の異物を取り除き、カッターホイールが手で回ることを確認して下さい。
	・搬送スクリュウに異物が挟まっていないか。	・生ごみ投入口を開いて、異物を除去して下さい。
	・圧送ポンプの呼び水がされているか。	・呼び水がされているか確認して下さい。
	・給水されていない。	・給水バルブを開いて下さい。 ・断水中や、装置外のバルブ等により止水されていないかを確認して下さい。

過負荷ランプが点灯した。	・ ディスポーザ破砕室内に異物が挟まっていないか。	・ 点検口を開いて、破砕室内の異物を取り除き、カッターホイールが手で回ることを確認して下さい。
	・ 搬送スクリーに異物が挟まっていないか。	・ 生ごみ投入口を開いて、異物を除去して下さい。
	・ 圧送ポンプの呼び水がされているか。	・ 呼び水がされているか確認して下さい。
	・ 給水されていない。	・ 給水バルブを開いて下さい。 ・ 断水中や、装置外のバルブ等により止水されていないかを確認して下さい。
運転中、洗浄水が出ない。	・ 給水バルブが閉まっていないか。	・ 給水バルブを開けて下さい。
	・ 給水されていない。	・ 断水中や、装置外のバルブ等により止水されていないかを確認して下さい。
運転中、洗浄ノズルから水が出ない。	・ 給水バルブが閉まっていないか。	・ 給水バルブを開けて下さい。
	・ 給水栓が閉まっていないか。	・ 給水栓を開いて下さい。
	・ 洗浄ノズルのレバーを引いていない。	・ レバーを引いて下さい。
臭いがする。	・ 装置内が汚れていないか。	・ 生ごみを投入せずに、粉碎モードで5分間程運転して下さい。
	・ 貯留ホッパー内が汚れている。	・ 洗浄モードで貯留ホッパー内を洗浄して下さい。 特に汚れがひどい時は、台所用中性洗剤とスポンジ(シンクにキズがつかないもの)を使用して洗浄して下さい。
	・ ディスポーザ破砕室内に、生ごみが残っている。	・ 生ごみを取り除いて下さい。
	・ 貯留ホッパー内に、生ごみが残っている。	・ 生ごみを取り除いて下さい。

 警告

- ・装置が異常の状態では運転を行わないで下さい。  
異常のまま運転を続けると、感電、火災、漏水などの原因になります。
- ・装置の修理は専門の業者または当社指定のメンテナンス会社に依頼して下さい。
- ・ディスプレイ内や、貯留ホッパー内の異物を取り除くときは必ず元電源を遮断し、運転が停止したことを確認した後、厚手の手袋を着用してから行って下さい。
- ・ディスプレイ内部には鋭い刃が多数ありますので、注意して異物を取り除いて下さい。ケガの恐れがあります。



テラル株式会社

www.teral.net

本社	広島県福山市御幸町森脇230	〒720-0003	TEL.084-955-1111	FAX.084-955-5777
東北支店				
仙台営業所	仙台市宮城野区銀杏町39-25	〒983-0047	TEL.022-232-0115	FAX.022-238-9248
札幌営業所	札幌市中央区北11条西23丁目1-3	〒060-0011	TEL.011-644-2501	FAX.011-631-8998
北東北営業所	盛岡市津志田南2丁目12-27	〒020-0839	TEL.019-601-8818	FAX.019-601-8819
郡山営業所	郡山市島1丁目13-9	〒963-8034	TEL.024-922-5122	FAX.024-922-4226
北関東支店				
大宮営業所	さいたま市見沼区大和田町2-1018-2	〒337-0053	TEL.048-681-7822	FAX.048-681-7082
新潟営業所	新潟市中央区山二ツ5丁目6-21	〒950-0922	TEL.025-287-5032	FAX.025-287-3719
長岡営業所	長岡市宮園3丁目1-21	〒940-2021	TEL.0258-29-1725	FAX.0258-29-2369
水戸営業所	水戸市白梅4丁目2-16	〒310-0804	TEL.029-224-8904	FAX.029-231-4044
土浦営業所	牛久市ひたち野西4丁目22-3 オーシャンパドラー フロアC	〒300-1206	TEL.029-536-2760	FAX.029-530-2761
宇都宮営業所	宇都宮市鶴田町3333番地18	〒320-0851	TEL.028-346-3400	FAX.028-346-9432
前橋営業所	前橋市元総社町84-3	〒371-0846	TEL.027-253-0262	FAX.027-253-0278
長野営業所	長野市大字南堀401番地の1 豊和ビル三	〒381-0016	TEL.026-243-2860	FAX.026-243-2861
東京支店				
城東第1・第2営業所	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7769	FAX.03-3818-6763
城西第1・第2営業所	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-6752	FAX.03-3818-6763
アクアシステム関東営業所	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-5684-0238	FAX.03-5684-0218
東京開発グループ	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-6846	FAX.03-3818-6763
立川営業所	立川市幸町3丁目32-9	〒190-0002	TEL.042-536-2714	FAX.042-538-7080
千葉営業所	千葉市中央区今井町1493-4	〒260-0815	TEL.043-264-5252	FAX.043-226-7353
横浜営業所	横浜市神奈川区新浦島町1丁目1-25(テクノウェイブ100 10F)	〒221-0031	TEL.045-450-5351	FAX.045-450-5352
東京支社				
営業企画室	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7700	FAX.03-3818-6790
東京産業システム1課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-8101	FAX.03-3818-6798
東京産業システム2課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-5805-1311	FAX.03-3818-6798
東京環境システム1課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7800	FAX.03-3818-5031
東京環境システム2課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7766	FAX.03-3818-5031
東京環境システム3課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7800	FAX.03-3818-5031
東京環境システム4課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7799	FAX.03-3818-5031
東京施工管理1課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-7764	FAX.03-3818-6437
市場開発課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-3818-6846	FAX.03-3818-5031
ソリューション技術1課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-6891-7800	FAX.03-3818-5031
ソリューション技術2課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-6891-7800	FAX.03-3818-5031
ソリューション技術3課	東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル	〒112-0004	TEL.03-6891-7800	FAX.03-3818-5031
北陸支店				
金沢営業所	金沢市松島2丁目18	〒920-0364	TEL.076-240-0350	FAX.076-240-0357
富山営業所	富山市田中町2丁目10-24	〒930-0985	TEL.076-433-2151	FAX.076-432-8234
福井営業所	福井市問屋町3丁目501番地(ウイング八田101号)	〒918-8231	TEL.0776-28-5361	FAX.0776-28-5362
中部支店				
名古屋営業所	名古屋市中区伊勢山1-1-19(名古屋急送ビル 6F)	〒460-0026	TEL.052-339-0871	FAX.052-339-0895
名古屋環境システム課	名古屋市中区伊勢山1-1-19(名古屋急送ビル 6F)	〒460-0026	TEL.052-339-0875	FAX.052-339-0895
名古屋産業システム課	名古屋市中区伊勢山1-1-19(名古屋急送ビル 6F)	〒460-0026	TEL.052-339-0891	FAX.052-339-0895
産業界市場開発課	名古屋市中区伊勢山1-1-19(名古屋急送ビル 6F)	〒460-0026	TEL.052-339-0891	FAX.052-339-0895
アクアシステム中部営業所	名古屋市中区伊勢山1-1-19(名古屋急送ビル 6F)	〒460-0026	TEL.052-332-6510	FAX.052-332-6513
静岡営業所	静岡市駿河区豊田3丁目2-15	〒422-8027	TEL.054-285-3201	FAX.054-284-1831
沼津営業所	沼津市若葉町3-10	〒410-0059	TEL.055-923-1377	FAX.055-923-3449
浜松営業所	浜松市東区丸塚町132-1	〒435-0046	TEL.053-463-1701	FAX.053-464-1818
岐阜営業所	岐阜市六条南3丁目7-11	〒500-8358	TEL.058-271-6651	FAX.058-274-7379
大阪支店				
大阪第1・第2営業所	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8882	FAX.06-7711-5554
近畿アクアシステム課	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8883	FAX.06-7711-5554
大阪開発グループ	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8887	FAX.06-7711-5554
大阪環境システム課	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8885	FAX.06-7711-5554
大阪施工管理課	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8885	FAX.06-7711-5554
大阪産業システム課	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8884	FAX.06-7711-5554
ソリューション技術大阪C	大阪市西区靱本町1丁目11-7(信濃橋三井ビル3F)	〒550-0004	TEL.06-7711-8886	FAX.06-7711-5554
南大阪営業所	堺市北区百舌鳥梅町3丁目47-1(グレース中百舌鳥トキワ2A号室)	〒591-8032	TEL.072-253-4391	FAX.072-253-6966
滋賀営業所	守山市守山2丁目16-38-103	〒524-0022	TEL.077-583-3666	FAX.077-583-3685
京都営業所	京都市伏見区竹田中川原町359番地(TMKビル 1F)	〒612-8412	TEL.075-647-1550	FAX.075-647-1537
神戸営業所	神戸市中央区多聞通2丁目4-4(ブックローン神戸ビル 7F)	〒650-0015	TEL.078-382-1991	FAX.078-382-1993
姫路営業所	姫路市栗山町111	〒670-0954	TEL.079-281-5511	FAX.079-281-1487
中国支店				
広島営業所	広島市西区三篠町3-12-21(第2ベルビイ三篠 1F)	〒733-0003	TEL.082-537-0660	FAX.082-537-0678
福山営業所	福山市御幸町森脇337-2	〒720-0003	TEL.084-961-0222	FAX.084-961-0211
米子営業所	米子市上福原5丁目1-50	〒683-0004	TEL.0859-32-2970	FAX.0859-32-2971
岡山営業所	岡山市北区上中野2丁目24-14	〒700-0972	TEL.086-241-4221	FAX.086-241-4230
四国支店				
高松営業所	高松市東八ヶ町4-5	〒761-8054	TEL.087-867-4040	FAX.087-867-4042
松山営業所	松山市朝生田町2丁目1-33	〒790-0952	TEL.089-935-4335	FAX.089-935-4331
九州支店				
福岡第1・第2営業所	福岡市博多区山王1丁目6-3	〒812-0015	TEL.092-474-7161	FAX.092-474-7167
北九州営業所	北九州市小倉北区中井5丁目11-13	〒803-0836	TEL.093-571-5731	FAX.093-591-0192
久留米営業所	久留米市山川追分1丁目4-24	〒839-0814	TEL.0942-88-5825	FAX.0942-88-5823
大分営業所	大分市仲西町1丁目10-15	〒870-0135	TEL.097-551-1857	FAX.097-552-0589
熊本営業所	熊本市東区上南部2丁目7番12号	〒861-8010	TEL.096-380-8388	FAX.096-380-1795
長崎営業所	長崎市大橋町7-5(横山ビル 1F)	〒852-8134	TEL.095-848-2221	FAX.095-848-5137
宮崎営業所	宮崎市大字芳土870	〒880-0123	TEL.0985-39-1577	FAX.0985-39-1089
鹿児島営業所	鹿児島市荒田2丁目59-11	〒890-0054	TEL.099-253-4321	FAX.099-253-4325
沖縄営業所	那覇市壺川2-1-5	〒900-0025	TEL.098-851-9591	FAX.098-851-9593

●駐在所 徳島、高知、山口

修理・サービスのご利用は最寄りの支店・営業所へご連絡ください。

テラルテクノサービス株式会社